

令和6年度 大田原市介護サービス相談員派遣事業 介護相談記録書集計表

① 好事例

分類		内容	小分類
A	食事関係（嗜好品も含む）	おやつがあらかじめ一口大に切られている	安心の確保
		おやつは個々の状態に応じてやわらかいものに変更するなどの対応がされていた	
		利用者の希望する飲み物を提供する時間がある。	個人の尊重
		肌寒い日、冷たくてヨーグルトが食べられない、乳製品がダメという利用者に代わりのおやつを提供していた	
		利用料から決まった額を充て、各自の好みに合わせたおやつを提供している。	
		一人の利用者へ、ノンアルコールビールの提供があった。本人の嗜好を尊重。	
		昼食の主食が選べる。訪問の日はうどんかラーメンかで選べた。	喜びや元気の提供
ユニットごとに手作りした温かい食事が提供されていた。			
B	施設的环境	施設が清潔に保たれ、掃除が行き届いている。浴室もトイレもおいなどなく清潔。	安全と清潔
		利用者の荷物を収納したロッカーの取っ手が利用者の手が届かない位置にある。	
		避難口付近は物が置かれず整理されており、スムーズに避難できそう。	個人の尊重
		入浴施設がハイテクで、一人ひとり気持ちよく入れそう。	
		日付や献立、歌詞などの掲示物の文字が大きくわかりやすい。	自立の援助
		廊下に1m、2mと目印があり、リハビリに活用できている。	
		月の献立や予定（利用者のレクリエーションなど）が掲示されている。事前に知ることで楽しみにつながる。	喜びや元気の提供
		共有スペースにベッドがあり、周囲をカーテンで囲んで面会ができる。	
		タブレットを利用しての面会が可能。	
		壁面や広いフロアに職員手作りの装飾がきれい。	明るさの演出
		行事の写真が数多く掲示され、楽しんでいる様子がうかがえる。	
		テラスの活用（好天時は山々を見ながらのおやつ）。	季節を感じる
		壁面装飾が豊富で、室内に入った瞬間に季節を感じられる。鯉のぼり等の飾りつけ。	
受付に、無事故〇日目とボードに書かれている。	業務の効率化、職場環境の向上		

① 好事例

分類	内容	小分類
D	職員は、利用者のそばを通る際に一声かけていた。	安心の確保
	利用者に対して、とても丁寧に接していた。	
	おやつの前にしっかりと消毒していた。	
	フロアを離れる職員は、大きな声で「離れます」と職員同士伝え合っていた。	
	利用者がトイレに立った間に、食べこぼし等をさっと掃除する気配りがあった。	
	レクリエーションの途中、体調が心配な利用者にはバイタル測定が適宜実施されていた。	
	利用者が相談したいこと、聞きたいことを訊ける関係性が職員との間にできている。	
	椅子から立とうとする利用者がいると、職員がすぐに駆け寄って介助していた。	
	トイレの心配していた利用者がいたが、レクリエーションの途中や帰宅前にもトイレの声掛けがあった。	
	職員が離れるときは「離れます」と他の職員に分かるように声掛けしてから移動していた。	
	体操の際、車イスの利用者も椅子に座り直していた。安全に対する配慮が見られた。	
	塗り絵をしている中で、写真を見て絵を描いている方がいた。個に合わせた過ごし方ができている。	
	利用者各々の力量に応じて、職員がレクリエーションを明るく盛り上げている。	
	タオルたたみに職員がお礼を伝え、笑顔が多く見られた。利用者への「ありがとう」が随所に聞かれた。	
	怒りだした利用者が好きなチャンネルにテレビを切り替え、気持ちを紛らわす職員の関わり方がとても自然。	
	おやつ時間に居室から出ない利用者に対し、無理に連れ出さずおやつを運び入れていた。	
	「制限はあるが、ここではやりたいこと（書道など）ができる」との声。道具は持参するとのこと。	
	ケアマネが利用者一人ひとりの様々なことをよく把握している。声掛けやかかわり方がとても丁寧。	
	テーブルを叩く利用者に対し、けが防止や消音効果のためテーブルに毛布を置くなどの配慮があった。	
	外に出ようとする利用者職員と一緒に数分散歩するなど、個別の対応ができている。	
	レクリエーションに加わらない利用者にも無理強いはなく、声掛けもいろいろな方法でされていた。	
	自分の居室に仏壇の持ち込み。それぞれの信仰を大事にしている施設の配慮を感じた。	
	カレンダーに今日がわかるよう○印が付けられている。	自立の援助
	利用者間でゲームを交換したり、自分で選べるようになっている。	
取り込んだ洗濯物を利用者がたたむのを職員が手伝っていた。できることはやるスタイル。		
体操前に今日の日付や曜日、お昼ご飯等の問いかけがあり、頭に良い刺激になっていた。		
少しでも歩くために、体操は併設事業所に移動して行う。		

① 好事例

分類	内容	小分類
D	シルバー大学の方がダンスを披露していた。	喜びや元気の提供
	スタッフが皆元気そうで明るい声であいさつしている。	
	洗濯物たたみを任されている女性、頼りにされることが嬉しい様子。	
	作品が廊下に展示され、励みになっている。	
	利用者同士の交流（塗り絵を教わる側と教える側。前者はきれいに出来る満足感、後者は誇らしさ）。	
	外出（紅葉狩り）に行き、涙する利用者がいた。	
	「お風呂はゆっくりとつかることができ、気持ちいい」	
	レクリエーションで歌うときに曲のエピソードを話すなど、スタッフが盛り上げようとしていた	
	実習生が来ることもあり、介助や話し相手をしている。「若い世代と話すのが楽しみ」との声があった。	
	「リハビリの評価が書面で見られて、振り返ることで励みになる」	
	帰宅すると誰とも話すことのない人もおり、なるべく話しかけ楽しく過ごしてもらうように、との職員	
	利用者にかける言葉が大変明るい。声をかけられると表情が和らぐ。	
	帰りの送迎時、荷物を運び出す職員、利用者を誘導する職員と、流れるような動線で動いていた。	業務の効率化、職場環境の向上
	送迎の運転手がいる。職員の掛け持ちがないことは良い。	
	職員同士、お礼やちょっとした謝罪の言葉が聞かれ、お互いに気持ちよく仕事ができそうな雰囲気。	
	イスやコップに利用者の名前が付いており、話しかけやすくありがたい（不慣れな職員も同様に感じそう）	
	高校生や専門学校生の実習を受け入れている	社会への貢献